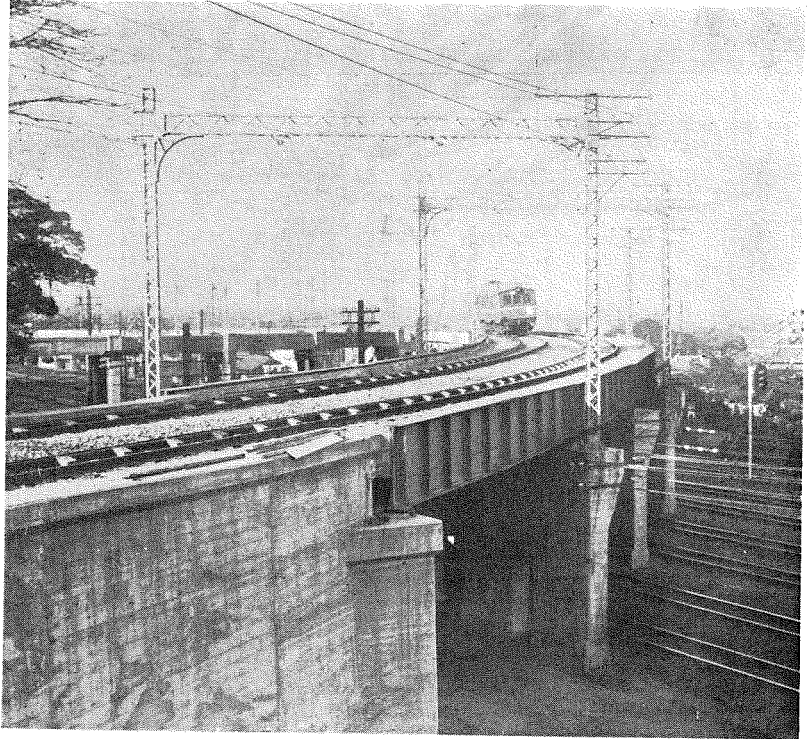
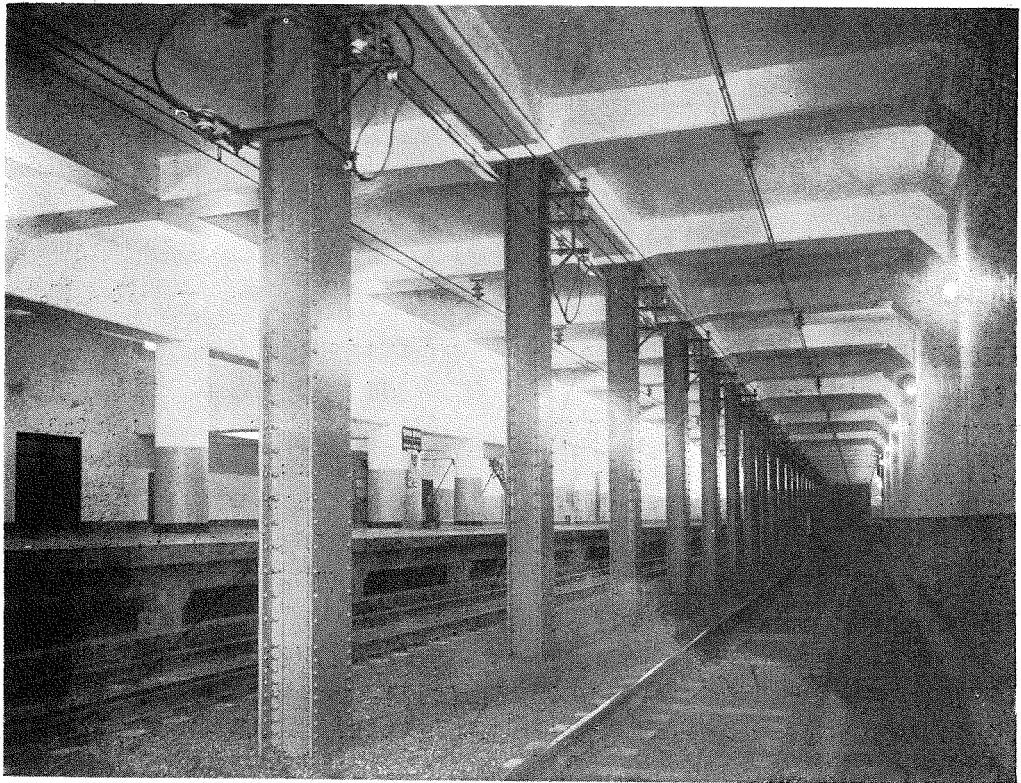


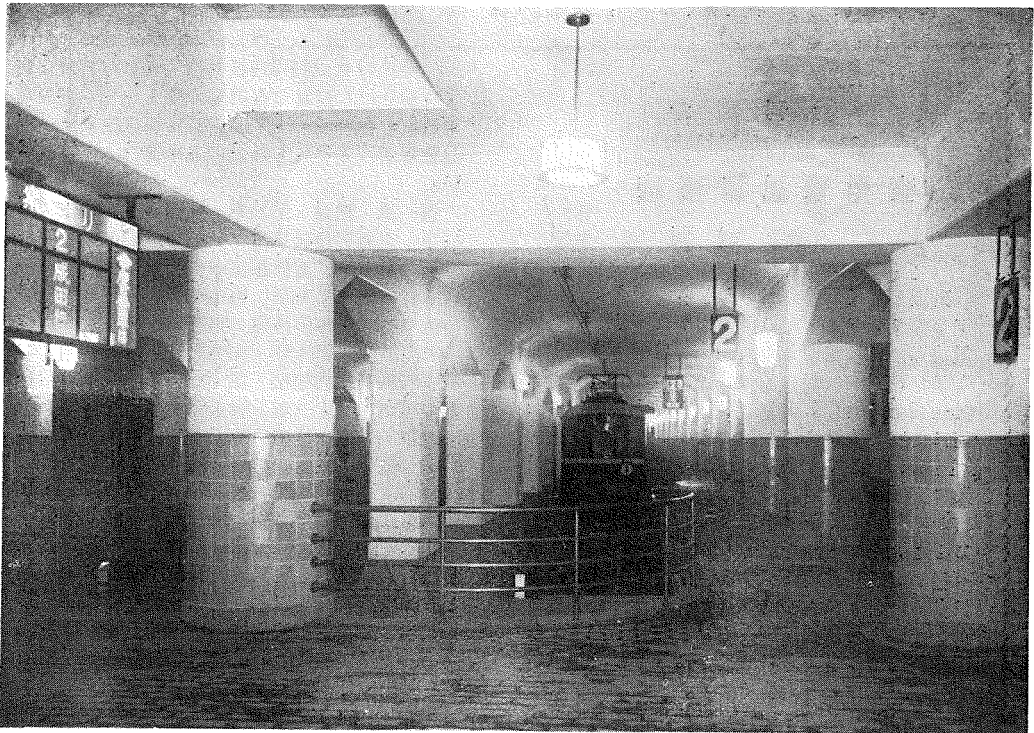
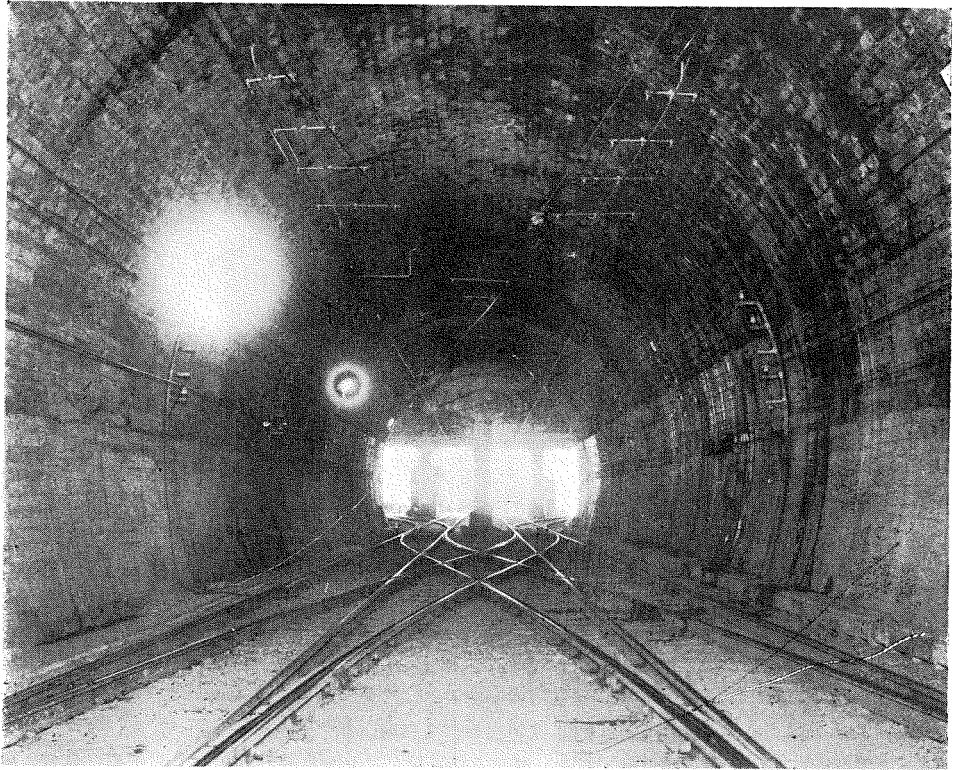
開	通
せ	る
京	成
上	野
線	工
事	グ
ラ	フ



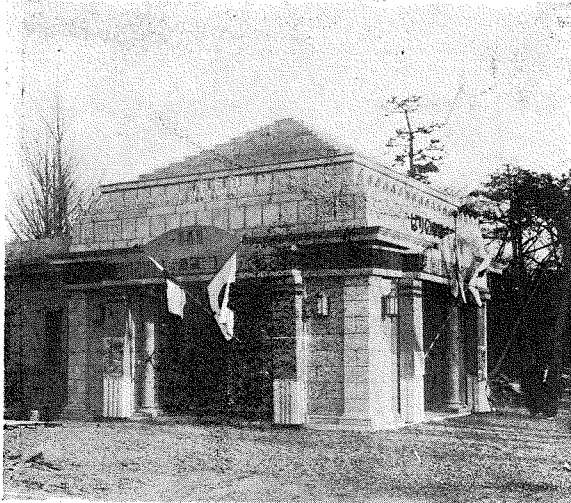
- (1) 日暮里鶯谷
間省線山手線
乗越橋梁。
- (2) 博物館動物
園驛乗降場。



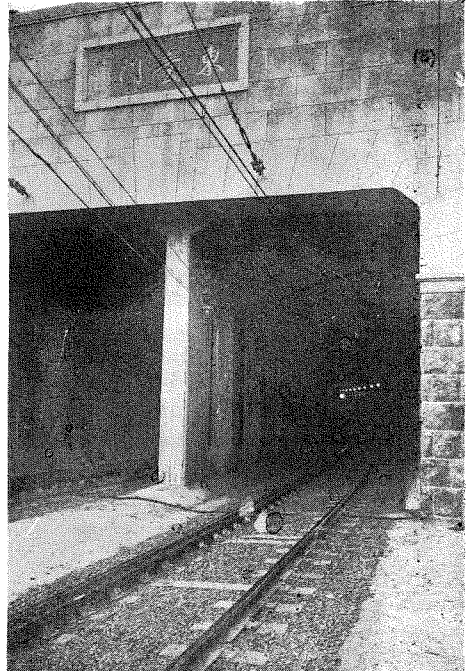
(3) 馬蹄型隧道と亘線(上野公園驛入口)



(4) 終端上野公園驛乗降場。



(5) 博物館動物園駅出入口(博物館寄)



(6) 函型隧道入口、東臺門。→

工事概要 詳細は本誌第九卷第二號を参照されたい。此處には重複を感へ省略することにした。今回開通區間延長 2,122米²、全線複線にて内地上線680米、地下線1,440米、この内函型構築869米、馬蹄型遂道571米である。何しろ全線殆んど上野公園の下なので、工事は非常に慎重に遂行され近來の名工事であった。請負は大林 間、大倉土木である。

新刊紹介

實用電弧銲接機

工學士 遠藤義夫著

列國をして心膽を寒からしめた獨逸の豆戰艦ドッチランド號と云ひまた僅々七ヶ月と云ふ驚異の短期日に進水した我國の新鋭潜水母艦大鯨と云ひ、劃期的記録を作り得たのは何れも電弧銲接利用の賜であると云はれる。電弧銲接は急速に發達し造船には勿論あらゆる機械建築橋梁製等、苟しくも金屬の使用せらるる一切の工業に應用され、斯界に一つの革命をもたらしたばかりでなく、今や其用途は益々擴大され、止るところを知らぬ状態である。

従つて電弧銲接に關する適當な參考書の出現は多くの人々によつて待望されてゐた處であるが、その期待に添ふ恐らく最良の書として、今回遠藤氏の標記著書が出版されたことは斯界のため誠に喜ばしき次第である。

遠藤氏は日立製作所技師にして多年同所に於て實驗された豊富な資料を基礎として本書を著された。内容極めて平易、且廣範専門家には勿論初學者にとつても無二の參考書たるを疑はない。

第一章 總論 第二章 炭素電極銲接法 第三章 金屬電極銲接法 第四章 銲接裝置及其器具 第五章 電弧銲接機の種類 第六章 直流複式銲接機 第七章 直流單式銲接機 第八章 直流單式銲接機の種類 第九章 直流電弧銲接機の原動機 第十章 交流複式銲接機 第十一章 交流單式銲接機 第十二章 交流單式銲接機の種類 第十三章 代表的銲接機の實際 第十四章 自働銲接機 第十五章 原子水素電弧銲接 第十六章 銲接附屬器具 第十七章 電弧銲接直流發電機の試験法 第十八章 電流銲接機の仕様 第十九章 銲接機の故障と修理 第廿章 銲接技術練習法 第廿一章 基礎的練習法 第廿二章 實地的練習法 第廿三章 歪と其防止法 第廿四章 電弧銲接實習教程 第廿五章 銲接者の技術檢定 第廿六章 電弧銲接參考資料(菊判358頁圖版豊富、一部3圓80錢 送料21錢 日本橋大倉書店發行)